

逞筆模試

第十回

二月七日

解答難度指数 1.83

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。①～⑩は音読み、⑪～⑳は訓読みである。

(30)
1×30

- ① 言路を**壘**して大禍を醸成したり。
- ② 色荒は**鬚籠**に惑うなり。
- ③ 塵中に**汨没**すること十有余年。
- ④ 短軀白哲、三日月形の**撥鬢**奴。
- ⑤ 竜驤**蠖**、汚隆に従う。
- ⑥ 劫**藪**経て踊子は猫と化す。
- ⑦ 衣服を悪しくして美を**黻冕**に致す。
- ⑧ **溥博**は天の如く、淵泉は淵の如し。
- ⑨ 水火**醢醢**塩梅以て魚肉を煮る。
- ⑩ **雉**上の露、何ぞ啼き易き。
- ⑪ 吉凶妖祥を知るは**傴巫跛躄**の事なり。
- ⑫ 陰陽相得て万物を**煦嫗**覆育す。
- ⑬ **檀**樂空曲に映じ、青翠漣漪に漾う。
- ⑭ 公廩**稻**の一割を国儲に充てる。
- ⑮ 朱虎熊**羆**を以て佐となす。
- ⑯ 唧筒を以て間断なく新気を輸す。
- ⑰ 人生は朝露に譬え、居世は**中窳**多し。
- ⑱ 冬になりて**御視**大嘗会行わる。
- ⑲ 卑疵して前み、**嫺趨**して言う。
- ⑳ 愛なくば鳴る鐘、響く**鏡鉢**の如し。
- ㉑ 落武者は**薄**の穂にも怖ず。
- ㉒ 冬は温かくし夏は**清**しくす。
- ㉓ **柳鮪**かき消すごとく散りにけり。
- ㉔ **鬪**大理の庭に巣くう。
- ㉕ 淳**澗**く質喪いて、民偽日日に滋し。
- ㉖ 暑に当たりては**袷**の**絺**給もてす。
- ㉗ 我豈天下を**齧**らむや。
- ㉘ 一年や**狢**評定夜明けまで。
- ㉙ 春は来ぬけむる**嫩草**に**裊**たり。
- ㉚ 暮れ**夙星**の輝く枯れ野かな。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。㉑、㉒は国字で答えること。

(40)
2×20

- ① 初夏の**サヤエンドウ**を賞味した。
- ② **サンバンウ**を踏むように身体を動かす。
- ③ **トツサ**な出来事に呆然としていた。
- ④ **カンナクス**で火が付いたように喋る。
- ⑤ 聖母を描いた**キョウリユウ**天井の壁画。
- ⑥ 八坂神社に**オケラ**参りをする。
- ⑦ 古人の**ハンチュウ**を出た斬新な名吟。
- ⑧ 滅罪生善を齎すは**ザンゲ**に因る。
- ⑨ 煙波**ビヨウボウ**たる大洋を望む。
- ⑩ 獅子吼して聴衆の**ハイブ**を衝いた。
- ⑪ 紫檀の**キョウソク**に病身を預ける。
- ⑫ 日夜の振舞**ジョウハリ**の鏡に映る。
- ⑬ ドローンが**ギリモ**みしながら落下した。
- ⑭ **ホウ**じられた茶の香りが漂う。
- ⑮ 穀雨の山沢に**ゼンマイ**を採る。
- ⑯ **ゼンマイ**仕掛けの古時計。
- ⑰ 宝算四十九歳で**コウキヨ**なされた。
- ⑱ 河川を浚渫して**コウキヨ**を開鑿する。
- ⑲ 子は夫婦の中の**カスガイ**。
- ⑳ 川辺の**トジョウ**が逃げ出した。

(三) 次の1～5の意味を的確に表す語を、次の□から選び、漢字で記せ。

(10)
2×5

- ① わがままな子ども。
- ② 甚だしく恐縮する。
- ③ 最高最上の悟り。
- ④ 子孫が繁昌すること。
- ⑤ 生まれつき備えている徳望。

いく・かんじよう・きようじくきようかく・しゅうしせがき・てんしやく

(四) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。

(30)

問1
次の四字熟語の(①～⑩)に入る適切な語を次の□から選び漢字二字で記せ。

(20)
2×10

- | | | |
|--------|----|-----|
| (①) 無欠 | 天地 | (⑥) |
| (②) 渾金 | 端木 | (⑦) |
| (③) 遺風 | 余裕 | (⑧) |
| (④) 画粥 | 打草 | (⑨) |
| (⑤) 生動 | 左提 | (⑩) |

かいびやく・きいん・きようだきんおう・じきん
しやくしやく・すうろ
だんせい・はきぎよく・ゆうけつ

問2
次の①～⑤の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。

(10)
2×5

- ① 優れた才華のたとえ。
- ② 詩宗の文を評したことば。
- ③ にわかに真理を理解すること。
- ④ 軍隊の敗れついえるさま。
- ⑤ 極めて稀なもののとえ。

蕙苒明珠・騰蛟起鳳・韓海蘇潮
豁然大悟・攀竜附鳳・螻蟻潰堤
轍乱旗靡・麟角鳳嘴

(五) 熟字訓・当て字の読みを記せ。

- | | | |
|------|-------|------|
| ① 敗醬 | ⑥ 辛夷 | (10) |
| ② 雀鷄 | ⑦ 六月雪 | 1×10 |
| ③ 紐育 | ⑧ 灯台木 | |
| ④ 老成 | ⑨ 甘露子 | |
| ⑤ 鉄蕉 | ⑩ 流鏑馬 | |

(七) 次の①～⑤の対義語、⑥～⑩の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

- | | |
|-------|------|
| ① 戦捷 | ⑥ 蘭艾 |
| ② 久闊 | ⑦ 群公 |
| ③ 非力 | ⑧ 朝野 |
| ④ 売僧 | ⑨ 扠子 |
| ⑤ 八十蔭 | ⑩ 欸乃 |

(20) 2×10

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分で漢字で記せ。

- ① 雲無心にしてシヨウを出ず。
 ② トウチヨの疑い。
 ③ サンセイの養い。
 ④ キヨウゲンは徳の賊。
 ⑤ セキレイ原に在り、兄弟難を急にす。
 ⑥ キュウコウは追うこと勿れ。
 ⑦ トウロウ其の臂を怒らして以て車轍に当たる。
 ⑧ セキレイに翫れて玉淵を窺わず。
 ⑨ クドウを行く者は至らず。
 ⑩ 妻たり妻たり、是のバイキンを成せり。

(20) 2×10

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

- ア ① 枉駕…② 枉げる
 イ ③ 做官…④ 做す
 ウ ⑤ 攢蹄…⑥ 攢まる
 エ ⑦ 罔極…⑧ 罔い
 オ ⑨ 駢文…⑩ 駢ぶ

(10) 1×10

あじやり・おんもん・くんゆう
こうこく・こうてい・しゅび
とうか・はいじく
ひやくへき・ろしや

(九) 文章中の傍線(1.~10.)のカタカナを漢字に直し、波線(ア~コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30) 2×10
1×10

A 文運の盛衰は世道の汚隆に関わり、世道の汚隆は諸を文運に徴す。古昔皇朝延喜天曆の際、儒術を崇び、礼楽を**ア**餉す。民物**イ**殫、海宇**ロ**一、**ハ**翫然文治の世と称すべし。保平の乱に至って、皇化陵遲し、鎌倉氏の覇武断理を為し、室町氏之を承く。其の季世に**ニ**迫んで**ヘ**ハントウ極まる。惟夫れ盛衰**ニ**迭いに運り、否泰相通わる。是の時に方って、天我が烈祖大君を生み、**セ**錫うに勇智非常の徳を以てし、賦するに文武兼濟の才を以てし、昏霧を掃蕩して以て朗日を掲げ、**シ**ゲイゲイを誅夷して以て麟鳳を来たせり。既に惺窩先生を延いて之を礼待し、又羅山先生を擢んで以て顧問に備う。此より後、崇文の風**オ**復興り、干戈を睹すること今に於いて二百余年なり。

(「先哲叢談」序(佐藤 坦)「より」)

B 凡そ青襟子弟輩の学問事業に従事し、名を一時に轟かして芳を百世に流さんと欲するものは、先ず節を折るといふことから始めねばならない。節を折るとは。けだし少年の時は思慮が未だ定まらないで血気が甚だ**カ**熾んにあるので、往往にして其の意馬心猿の**チ**チシユウする所に放任し、歌舞に、花柳に、**リ**リュウレン荒亡しては自ら磊落と為すやら、初老先生を凌轢し、**キ**閭巷に争闘し、力を出し、気を用いては、自ら豪放と為すやら、父兄の訓誡も、朋友の規諫も、皆之を馬耳東風に付して、身は自ら邪逕に蹈み迷いつつあるを知らないもので有る。**キ**キオウは咎めない、将来は畏れねばらない、一朝にして猛然として自省し、自省すると同時に、熱心に、学問事業に従事し、大器晩成を以て自ら期するのが所謂折節。

(「宮崎来城「名流苦学談」より」)

C 予、員外の身を以て国事に**シ**オウシヨウして報効を図りしは壬戌の七月に至りて止む。爾後重讒を蒙り洛北の山村に屏居し**カ**カツキユウを換ゆること己に四回に及べり。其の間交わる所の者は農夫樵人にして時事を聞くもまた街談巷説に過ぎず。今者漫りに三事策を註して所思を述ぶるも揣摩臆測事実を謬るもの蓋し多からん。読む者請う、之を恕せよ。

(「岩倉具視「叢裡鳴虫」より」)

D 平安京は桓武帝の経営する処にして既に年を閲すること一千有余。其の土地は山川**メ**メイビにして大祠名利之を粧点し、其の民俗は礼儀を知り儉素を**ク**崗び、前皇の政沢なお自ら今日に遺存し実を上国の名に**ケ**礙う。然るに大政維新の後、車駕東幸、百官群臣属従し此の地に留まるもの僅かに十中の一二に過ぎず。是の故に親王公卿諸侯の邸宅尽く靡撤し**コ**鞞いて茂艸と為り、東幸已来未だ十年を出でざるに**イ**イカンの区、変じて將に狐兔の栖とならんとす。

(「岩倉具視「京都保存に関する建議」より」)